

登録コード	F3000436	開講年度	2026					
授業科目	インターンシップ(応生)					担当教員	白井 孝治 他	
英文授業名	Internship					副担当		
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	応用生物科学科3年	
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 Fカリ・応用生物							
	【2020年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し理解できるとともに、自ら適切な手段により発信し、他者に働きかける能力が身に付いている					⇔	業務遂行に必要な情報を収集・整理・分析し、その内容や成果を報告書や発表を通じて適切に伝達できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	学期はじめに希望者は履修登録を行い、これに対応してガイダンスを実施する。次に参加(履修)希望者の希望企業との調整作業、および申請作業を経て、夏季休暇中に1～2週間の実習を行う。なお、申請において必要な提出書類等の作成作業も実習に含まれる。また、実習においては、全員「学生教育研究災害傷害保険」、および「学生教育研究賠償責任保険」の双方に加入することを原則とする。実習終了後、報告書ならびに受け入れ企業から報告および評定を受け成績を評価する。必要に応じて、インターンシップ報告会を開催する。							
(5)授業計画	1. インターンシップガイダンス： インターンシップの内容を理解する。希望学生と企業の約束のみならず、企業と大学との信頼関係に基づいた実習であることを理解し、心身ともに健康であり、学生であるという立場を忘れて実習に取り組む必要があることを理解する。 2. 希望調査ならびに実習の申請： 企業等のリストをもとに希望企業を調査し、調整作業を経た後、インターンシップ申込書や誓約書を作成する。おおむね夏季休暇まえまでにすべての手続きを終了する。 企業の受け入れについての内諾を得た後、実習を行う。 3. 実習： 1～2週間の期間これを実施する。 4. 終了報告および評価 終了報告ならびに企業における報告・評定により成績を評価する。このとき必要に応じて報告会を開催し、成績を決定する。							
(6)成績評価の方法	1. 申請書作成時等の内容(10%)、実施報告書(40%)、および受け入れ企業の報告・評定書(50%)によって総合的に評価する。							
(7)成績評価の基準	「申請書の記述について必要な項目が網羅されている」、「実施報告書について、インターンシップの目的、計画、実施状況、およびその自己評価と改善点が適切に記述されている」、「受入企業の評価」などの達成目標の水準から見て以下の評価を行う。 <評定については次の評価基準を基本としている> 秀：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可：授業の達成目標の水準にある 不可(D)：授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可(F)：授業の達成目標の水準にない							
(8)事前事後学習の内容	・希望調査ならびに実習の申請において、企業等のリストをもとに希望企業を調査し、調整作業を経た後、インターンシップ申込書や誓約書を作成する事前検討作業を行うこと。 ・申請書等の作成に関しても十分な準備および相手方企業との調整を重ねること。 ・実習直前まで、相手方と調整した実習内容を確認・精査し必要な準備、関連の学習を重ねること。学生として社会人の中で実習することをから、必要なマナーについて学習を深める。 ・実習後の報告、ならびに企業からの報告作成の依頼など、必要なアクションを確実に実行できるように準備すること。 ・報告書や報告会について、評価を熟読し、指摘事項など改善点に対する回答を事後作成してまとめること。							
(9)履修上の注意	1. 実施時期は、原則として「学生夏季休業期間中」とする。 2. 実習期間は、原則として1～2週間 とする。 3. 大学外部の組織との約束に基づいて実施される実習である。内諾受諾後の学生の都合による取消や変更は、<学生>本人の問題だけではなく、<企業等>側にも多大なご迷惑をかけることになる。よって、内諾受諾後は、学生の都合による取消はもちろん、変更も一切認められない。 4. 履修登録にあたっては、慎重に考慮したうえで履修登録をすること。 5. 社会人としてのマナーを心がけるのみならず、企業等に対して責任を持って行動するように常にこころがけること。 6. インターンシップ実習期間が万一、他の授業科目開設日時と重なっても公欠は認められない。 7. 履修登録後において、担当教員とのコミュニケーションは実習に含まれる。また、事前に想定していない事項の対処については、実習前においては担当教員に、実習中においては企業側担当者と協議すること。							

(10)質問,相談への対応	事前にメール等によって、面談の日時・場所等を調整する.
(11)学生へのメッセージ	社会人としての自覚をもって臨んでください。
(12)その他	応用生物科学科では、インターンシップは自由科目です。 そのため、実は、自由科目は「履修できるが卒業要件に算入しない科目」となっており、他学科科目扱いとして専門選択科目に算入することもできません。
【教科書】	特になし
【参考書】	特になし